

ばあちゃん
弘道小学校五年 世古千晶

初めて乗る船
船は左右にぐらぐらゆれ
私は船にしがみつくと
でも海をばあちゃんは
船が海をばあちゃんは
岩にはひじぎがいくばい
黒い黒いひじぎがいくばい
ばあちゃんは平気で
そのジャングルへ入っていく
岩はゴツゴツ
足のうらが痛い
ザクツクザクツと
ひじぎをかりとる
私は必死
ブチッブチッと
ひじぎを手で引く
ばあちゃんの早さには
ぜんぜんかなわない



第14回「海の香りのする詩」市内小学生の部で大賞に選ばれた世古さんの作品です。
ばあちゃんの仕事を自分も初体験した。そのむずかしさと驚きの実感です。むだのない言葉で
背景のイラストも世古さんに描いていただきました。（選考委員長 渡邊正也氏評）
（関連記事を11ページに掲載しています）

ばあちゃんは
どんどん ジャングルを進み
ふくろいっばい ひじぎをつめこむ
いつもものはあちゃんとはどっかちがう
ばあちゃんは楽しんで
ひじぎをふくろにつめこんで
こんなに たぞ
と自まんに
私の方を見て ほほえんだ
しお風がばあちゃんを包みこんだ
黒いジャングルが
すっかり岩場にかわった
ばあちゃんはすごい
いつか私もばあちゃんみたい
ザクツクザクツと
黒いジャングルの
かりとってみたい